

お知らせ（NEWS）

- 皆さんの頑張りで、何とか上期の目標予算数字は達成出来ました。
- 3月25日(金)に、全社の下期全社目標会議をウェブ開催致しました。
- 7月開催のモノづくりワールド展へ幕張メッセに出展致します。



目標（43期下期）について 社長 寄稿

43期上期は従前の予想通り、主力アイテムの補修品化による販売減の影響により、ここ数年来で最も厳しい期になることが予想されていましたが、社員の皆さん全員の踏ん張りにより、新規アイテムの受注成約と既存アイテムの販売積上げにて、なんとか最低ラインである期初目標予算は達成することができました。

一方で、前年同期実績をクリア出来なかったことを真摯に受け止め、反転攻勢に向けて全社一丸で4月からの43期下期に危機感と緊張感をもって臨んでいく必要があります。

取り巻きの外部環境には、刻一刻と不確実性が高まっているのは周知のとおりです。このような環境下、商社としてお客様に存在価値を示し、競合他社ではなくDSCを選んで頂くためには何よりも全員が、会社の最重要方針である「**細即・誠実対応**」を徹底して実践することが重要であると考えています。

43期下期ではモノづくりワールド展への出展やHPのリニューアルなど、広報活動も強化して参ります。またコイル・磁石製品の技術社員や若手営業社員の増員も予定しており、更にパワーアップした布陣で、悲願である中期計画達成に向けて、アクセル全開で新規種まき活動の活性化に取り組んでいきましょう。

来期も引き続き宜しくお願いいたします。

実践管理者養成講座を受講 東京営業所 Mさん寄稿



昨年10月より係長に昇進した私は、社外の研修にて管理者養成講座に参加させて頂きました。5カ月間の間受講し、職種は様々で最年長は66歳の方も参加しておりました。この研修に参加し、感じた事を書いていきたいと思います。

講師の方がおっしゃっていましたが、部下の適性がないとか能力が無いといった理由は上司のせいときっぱりと話しており、他責にしないという思考がリーダーシップを発揮する上での前提条件だという言葉が印象的でした。

また、中間管理職が経営者に期待されている役割や、部下育成について学んだ時にすべての事柄には信頼関係の構築が重要でコミュニケーションの大切さを改めて実感しました。

第三講ではグループワークにてメンバーの皆さんに自分自身が見えていない長所・短所を忖度無く話して頂く事で新たな気付きを得る事が出来、貴重な体験をすることが出来ました。

研修を通して色々な考え方や手法を学びましたが、研修で学んだだけでは何も変わりません。社内で実践を行わなければ意味がありません。

自身が変わることによって、周りを変えたり引っ張ったり出来るように覚悟をもって、今後業務に取り組みたいと思います。

広州工場製造部の現状 製造部 Lさん 寄稿

- 生産部門:現在、製造部はインダクタとトランスの二つ生産部門が有り、インダクタにハーネスとPCB組み立てラインがあります。
- 自動化設備導入推進:製造部は自動化設備の導入を推進しており、インダクタには9台の全自動巻線機含め18台自動化設備、トランスには8 台の全自動巻線機含め14台自動化設備が有り、生産効率を向上させ持続的にコスト削減を行っています。また、積極的に設備メーカーと交流し、最新設備情報を入手し効率的でリーズナブルな自動化設備導入を行っています。
- 製造スタッフ:製造部には経験豊富な技術及び管理チームがあり、スタッフは工程と設備管理など専門 知識とスキルを持っています。しかし、新しい設備が更新されるにつれて専門知識・能力に 対して より高い要求がされるため継続的な学習・教育を行っています。
- 製品の品質改善: 品質改善会議を定期的に開催し、不良データの収集と分析を通じて、問題の根源を突き止め有効な措置を講じ不良率を低下させ、製品品質を向上させています。
- 生産効率の改善:量産試作の段階で不要な工程・作業を取り除き、生産の無駄を減らし全体の生産効率を向上させています。
- 人員教育

- ① 技術スタッフの教育訓練:定期的に設備メーカーに派遣し、学習と交流を行い技術的な視野を広げ、新しい設備技術の理解と把握を深めています。
- ② 生産作業員の教育訓練:年間教育訓練計画を作成し教育訓練を行い、作業員能力と 製品品質意識を向上させ、製品品質の安定確保と生産性向上を目指しています。



大阪マラソンに参加 大阪営業所 Tさん寄稿

大寒波が到来し、2025年2月24日はこの冬一番の極寒で朝起きると雪が5cmも積もっていた。仕方なく駅まで徒歩30分・・・今年は大阪マラソンに運よく当選。今シーズンは、10月舞鶴ハーフなどここ最近では一番大会にエントリーし、練習もそれなりにこなしてきました。

エントリー総数は、34000人。人の流れに沿って、着替え手荷物預かり場の大阪城ホールへ。大阪城ホール内の男性トイレは閉鎖、そこからスタートブロックまで約30分徒歩移動の中、仮設トイレは数少なく、スタート時刻も迫っていたのでスタート位置へ整列することに。

第二ウェーブの9時半までの極寒の中の待ち時間は悲惨でした。大会アンバサダーのコブクロの小淵さんが大会を盛り上げようと話をしていますが、それどころではありません。

スタートの号砲が鳴り、ようやくスタート地点をすぎ、あとは一点集中トイレを探します。

4キロほど走ったところに仮設トイレ、予想通りの長蛇の列です。そこで20分ほどロス。

御堂筋で家族が応援に駆けつけてくれていましたが、かなり待たせてしまいました。走っている間も雪がちらつく厳しいコンディションもあり、20キロ前後でもトイレに行ってしまう、目標の4時間切りは完全に終わりました。

その後は、沿道の声援を力に変えて気持ちを切り替えて走り切りました。(4:34:36)また、来シーズンに向けた計画を立て、マイペースで準備したいと思います。